

目指す学校像	保護者・地域と絆を深め、親しまれ、信頼される学校
--------	--------------------------

重点目標	1 確かな学力の向上と、自立した行動ができる児童の育成。 2 家庭・地域との連携強化。 3 安全で清潔な環境の整備による安全・安心な学校づくり。 4 教職員の指導力向上と働き方改革の意識の醸成。
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標			年 度 評 価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・算数ともに全国、市平均と比べて良好な結果である。 ○学校評価(児童アンケート)において「学習が楽しい」の肯定的な回答をした児童の割合は89%であった。 〈課題〉 ○学校評価(児童アンケート)の結果「授業では、よく話し合い活動をして、友達と意見交換をしています。」の「そう思う」の回答が51%に対して「授業では、自分の考えを発信、発表をしています。」が38%で、差が見られた。全体の前でも自信をもって考えを伝えられる力の育成が課題である。	・自ら学び、考え、判断し、よりよく問題を解決できる子の育成 ・豊かなかかわり合いをはぐくむために、特色ある教育活動(浦和別所小のめざす子ども像「べっしょのよい子」)の実践	① 算数科の授業で前時までの学習の振り返りを適宜行い、学習内容を教室に掲示して児童が自ら既習事項を想起し、これを生かして新たな課題に主体的に取り組めるようにする。 ② 授業で1人1台端末を活用した、多様な学びの場を設定し実践する。	① 学校課題研究で実施する算数科の児童アンケートを年間2回以上実施し、児童の変容について検証し授業改善できたか。 ② 学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、端末の活用に関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	① 学校課題研究で実施する児童アンケートで「自分の意見や考えを説明したり発表したりしていますか。」について肯定的な回答90%以上とすることができたか。 ② 学校課題研究で実施する児童アンケートで「学習を通して、色々な考えを知ることができていますか。」について肯定的な回答を90%以上とすることができたか。				
2	〈現状〉 ○本年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について共有するとともに、「学校・家庭・地域が連携して取り組む『安全な登下校』」について熟議を行った。 〈課題〉 ○今年度は、学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域等に広め、「学校・家庭・地域が連携して取り組む『安全な登下校』」について熟議を重ね、具体的な対策を明確にし、実行していく。	・目指す児童像について学校運営協議会での共有と連携 ・児童による「安全な登下校」の継続的な取組について地域	① 年に3回の学校運営協議会で「安全な登下校」について熟議し、具体的な対策を明確にし、実行する。 ② H P に教育活動の様子を掲載し、3日に1回更新し、発信する。	① 学校運営協議会での熟議の場面で決定事項について説明したか。 ② 学校自己評価保護者アンケート「情報公開をし、開かれた学校」の項目の肯定的な回答を90%以上とすることができたか。	① 学校だよりにより決定した決まりを掲載したか。 ② 学校自己評価保護者アンケート「児童は、登下校時のマナーや下校時刻を守っています。」の項目の肯定的な回答を60%以上とすることができたか。				
3	〈現状〉 ○本校は児童数1,180名を超える大規模校であり、児童数が年々増加傾向にあり、学区も広い。また、児童の通学路は交通量が多いうえに道幅が狭い現状にあるため、通学時には通勤や通学すると本校児童で混雑する現状にある 〈課題〉 ○児童へ通学路の安全確保について、交通ルール・マナーについての意識の高揚と自覚を図り、日常生活における安全のための習慣を身に付けさせることが課題である。	・「礼を正し、場を清め、時を守る」学校生活を基本とした、師弟同行の精神での児童の人格形成 ・児童主体による「安全な登下校」についてのルールづくり	① 浦和別所小の生活のやくそくを各教室に掲示し、各家庭にも配付する。 ② 毎月の安全点検や毎日の管理職による見回りにより発見した危険箇所は、迅速に対処する。	① 学校自己評価児童アンケートにおいて「楽しく学校生活をおくっています。」の項目の肯定的な回答90%以上となったか。 ② 学校自己評価保護者アンケート「施設・設備の管理」に関する項目で肯定的な回答を90%以上とすることができたか。	① 児童会の児童と教職員で安全な登下校について意見交換をしたか。 ② 児童会の児童を中心とした児童主体によるルールを作成できたか。				
4	〈現状〉 ○昨年度は第6学年で、今年度より第5・6学年において教科担任制を導入し、担当する教科に限って教材研究することで、専門的に児童が学習に取り組めるようになってきている。 ○今年度は、さいたま市人権教育研究校として算数科・特別の教科道徳における実践について発表を予定している。 〈課題〉 ○各教科においてICTを活用しているが、児童にとってより学習効果の高まる活用について検討していくことが必要である。 ○学校課題研究における授業実践を重ね、浦和別所小の学習ルールについて共通理解、共通指導を行っていくことが課題である。	・一人ひとり教職員の指導力向上に向けた研修の充実と働き方改革の意識の醸成	① エバンジェリストによるタブレット操作についての校内研修会を定期的に行う。 ② 指導者を招聘して各学年の授業研究会を年6回設定し授業実践を通して、指導法について検討し改善を図る。 ③ 月2回以上、全教職員対象としたノー残業デーを実施する。	① ICTを活用による、多様な学びの設定を全ての学級で行える状況になったか。 ② 「よい授業アンケート」調査結果において、全ての因子で市の平均を上回ったか。 ③ 月2回以上のノー残業デーを職員室内に掲示し意識を向上させたか。					